

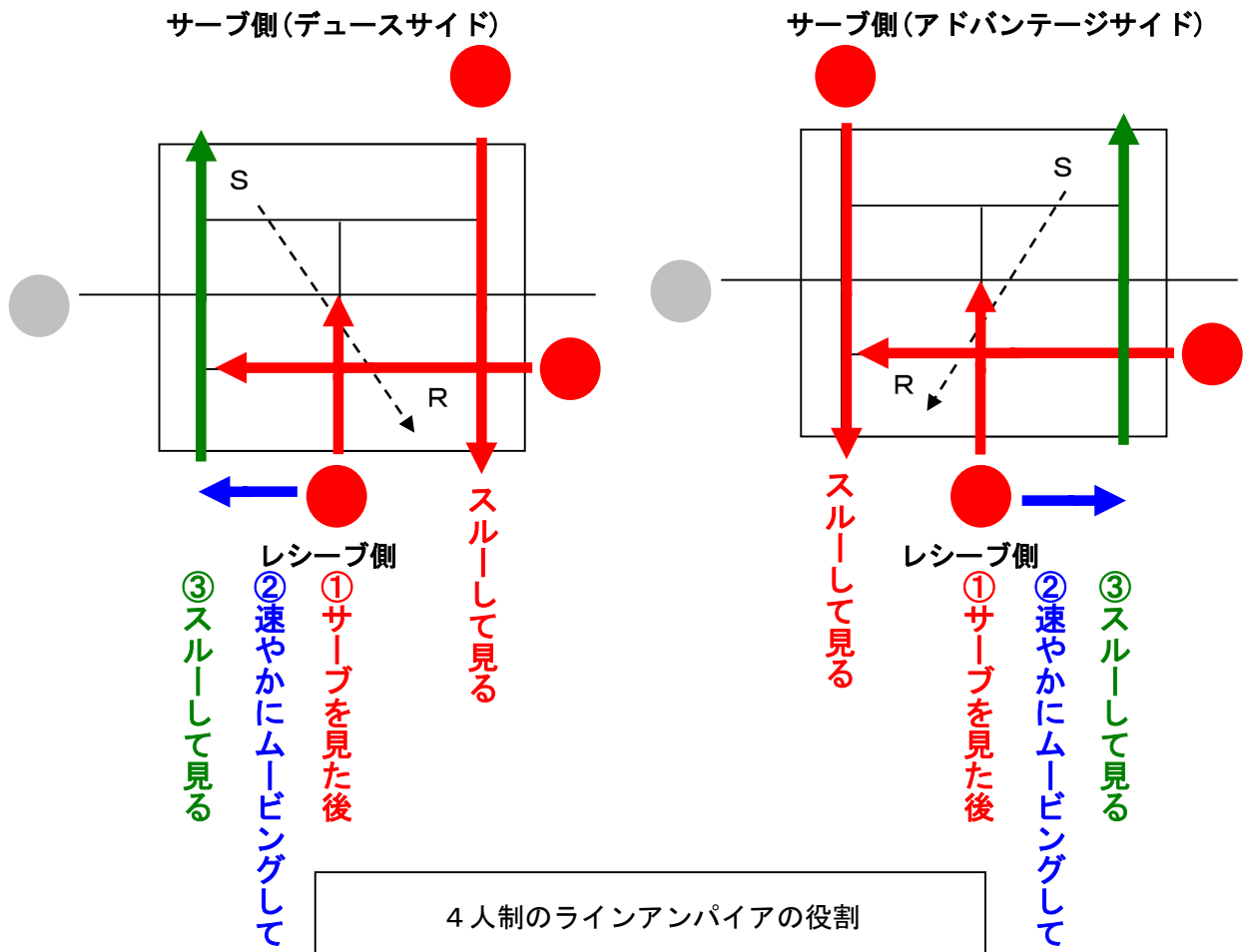
～ラインアンパイアをマスターしよう～

1. ラインアンパイアの役割

4人制・6人制・8人制・10人制の審判（高総体&新人戦で実施）

6月の高総体県大会や、9月の新人戦県大会では団体戦が行われます。例年、団体戦の試合には審判をつけ、選手ではなく審判がジャッジを行います。割り当て可能な審判の人数、試合の重要度やコート空き状況などにより、4人で行う審判（4人制）、6人で行う審判（6人制）、同様に8人（8人制）、10人（10人制）という審判形式があります。それぞれにおける審判の動き・役割は以下の通りです。

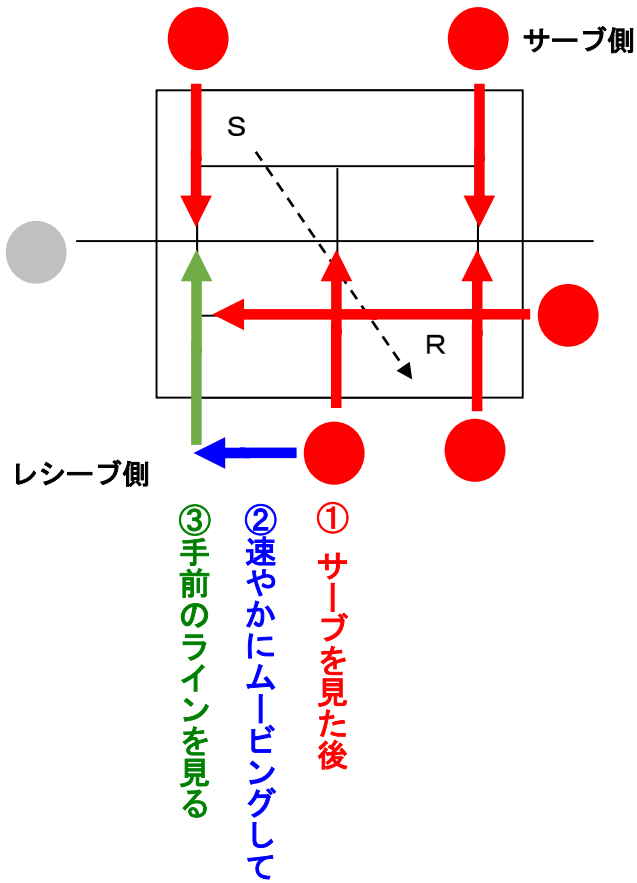
4人制（1R～3R等で実施）・・・サイドラインはネットの向こうまで、スルーして見る。ムービングをする。



4人制のラインアンパイアの役割

- ・サーブ側の線審は、サービスをスルーして見た後、引き続きサイドラインをスルーして見る
- ・レシーブ側の線審は、中央でサービスを見た後、ムービングして、さらにサイドラインをスルーして見る

6人制 (1R~3R等で実施) ...サイドラインはネットの手前を見る。ムービングをする。

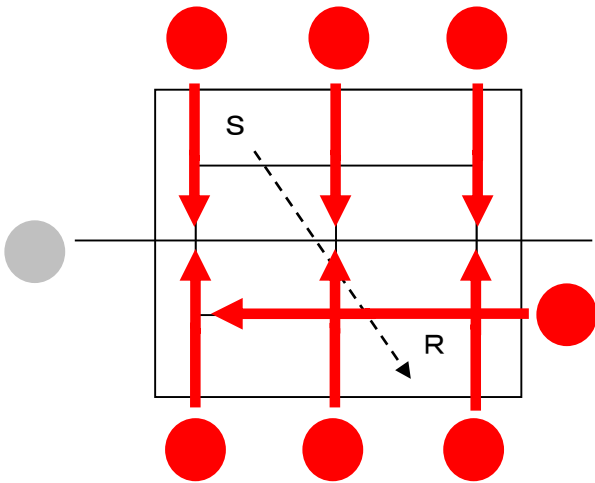


6人制のラインアンパイアの役割

- ・サーブ側の線審は、両サイドに立ち、ネット前のサイドラインを判定する
- ・レシーブ側の線審は、サーブのサイドではない方が中央でサービスを見た後、ムービングして、サイドラインに戻り判定をする

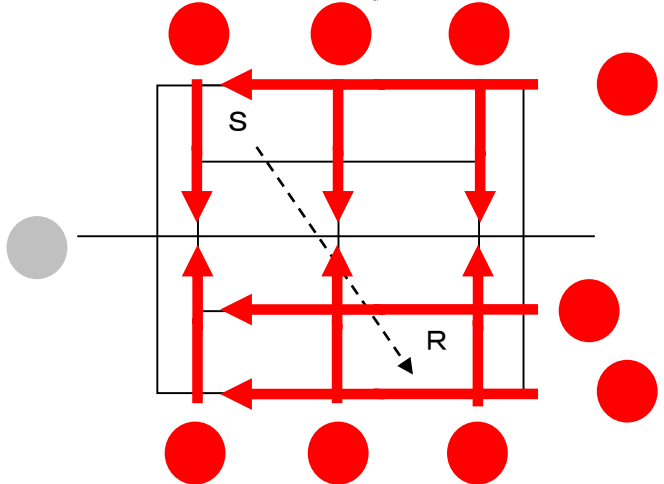
8人制 (準決勝等で実施)

サーブ側



10人制 (決勝で実施)

サーブ側

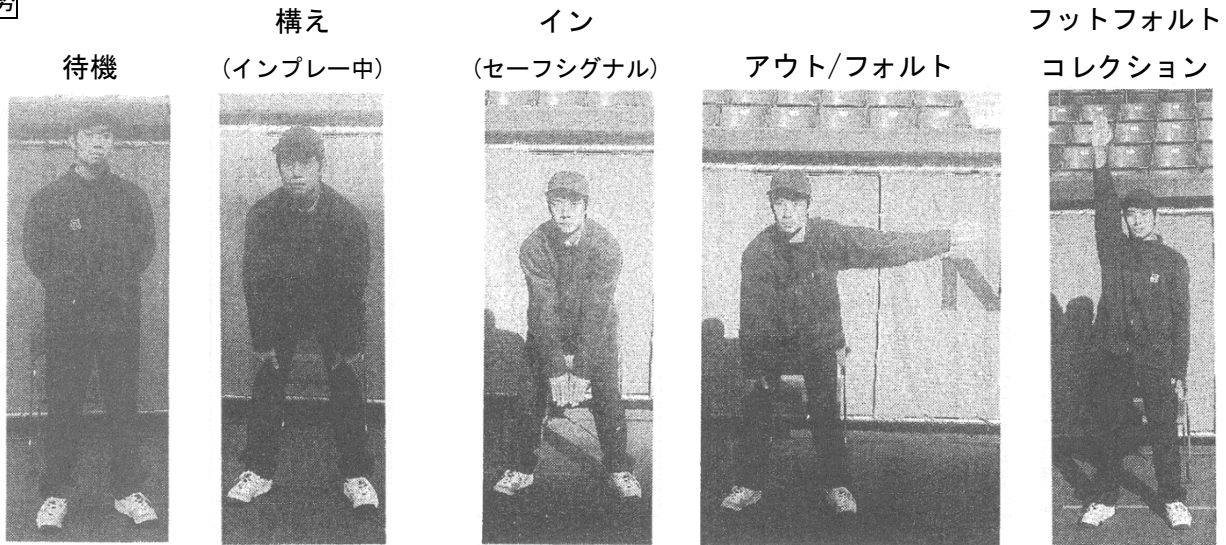


8人制、10人制のラインは

- ・ネット前の自分のラインを見る
- ・ムービング不要

2. 試合中の動作

姿勢



サービスライン担当者の動き

- ①. 選手がサービスの構えに入ったら腰をかがめて、手を軽く結び膝におきスタンバイし姿勢を保つ。
- ②. サーバーがトスを上げる頃には、視線をサービスラインに集中しておく。
(サーバーが打ったボールを目で追うのではなく、サービスラインをじっと見ている)
- ③. サーブが入ったならば、セーフシグナルを出しながら、素早くネット付近まで移動する。
- ④. ポイントが決まったならば、速やかにサービスラインの付近まで戻る。

サイドライン担当者の動き

- ①. 選手がサービスの構えに入ったら腰をかがめて、手を軽く結び膝におきスタンバイし姿勢を保つ。
- ②. ムービングが必要な場合(4~6人制)、サーブが入ったならば、セーフシグナルを出しながら、素早くジャッジすべきサイドラインまで移動し、ポイントが決まるまで姿勢を保ちジャッジをする。
- ③. ムービングが不要な場合(8/10人制)、サーブが入ったならば、セーフシグナルを2~3秒出し、その後はポイントが決まるまで姿勢を保ちジャッジをする。

注：4人制ではネット越しでの判定(スルー)になるので、特に神経を集中する。

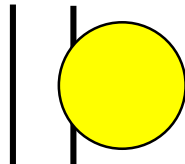
ベースライン担当者の動き

- ①. 選手がサービスの構えに入ったら腰をかがめて、手を軽く結び膝におきスタンバイし姿勢を保つ。
- ②. サーバーがフットフォルトをしたならば、ボールを打った直後に「フッフォー！」と叫ぶ。
- ③. サーブが入ったならば、ポイントが決まるまで姿勢を保ちジャッジをする。
- ④. 選手が打つボールを追うのではなく、視線をベースラインに集中しておく。
(反対コートの選手がボールを打つのを周辺視野で見、視線の意識はベースラインにおく)

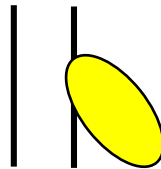
3. 審判中に起こりうるルールのQ & A

●どこまでが「イン」なの？

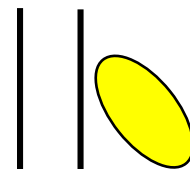
→「コートの友」（日本テニス協会から発行されているルールブック）の規則には、「ライン上に落ちたボールは、そのラインによって区切られたコート内に落ちたものとみなされる」とあります。つまり、ラインの上に落ちればたとえ端っこでもオンラインでグッドボールということです。ほとんどスロービデオなどでくらいしか確認できないようなラインをかすったようなボールもラインに触れていればオンラインとしてグッドボールとなります。



「イン」



「イン」



「アウト」

●自分のところにボールが転がってきた。

→自分の担当する試合のボールでも、隣のコートから転がってきたボールでも、ボールを拾わないこと。自分の目の前に隣のコートからボールが転がってきていて、選手やボーラーが「目の前にあるんだから早く拾ってよ！」と言わんばかりで待っていても、インプレー中は絶対に仕事を放棄してはなりません。

●アウトなのに「イン」とジャッジしてしまった。

→「イン(セーフシグナル)、(あっしまった)、アウト！」のタイミングで構いません。セーフシグナルを出してしまっても、すぐに「アウト」を大きな声でコールする。

●インなのに「アウト」とジャッジしてしまった。

→直ちに「コレクション！」とコールし、片腕を垂直にあげる(P14)。その後、セーフシグナルを出す。その場合、主審がプレーを妨害したことになるので、ポイントのやり直しとなる。ただし、それが明らかに返球の可能性が全くなかった場合(エースや追いつけないショットなど)は、ポイントはやり直さない。

●自分はイン(アウト)だと思ってジャッジしたのに、選手や監督が猛抗議してきた。

→自分のジャッジに自信を持ち、たとえ猛烈に抗議されても一切声を出してはならない。また、講義を受けて判定を覆してはならない。それでも抗議を続ける場合には、主審に判断を仰ぐ。(選手も次の抗議は主審に対してどう思うのか聞く場合が多い)

●プレーヤーにさえぎられ、ボールの落下地点が見えなかった

→アンサイト・シグナル(両手で目の下を覆うしぐさ)を主審に出し、主審の判断を仰ぐようにする。

(ただし、これは非常手段。このようなことがないように立つ場所を工夫してジャッジすること。特にダブルスのサービスラインや、レシーバーのサイドラインをジャッジする際に見えなくなりやすい)